

宮井和恵先生の定年ご退職に寄せて

教育学科

瀬尾 美紀子

宮井和恵先生は、本年度をもって定年ご退職されます。宮井先生が教育学科のために、これまでご尽力なされてこられたことに、教育学科一同、厚くお礼申し上げます。また、無事にご定年をお迎えになることに、心からお祝い申し上げます。

宮井先生は、1977年3月に鹿児島大学教育学部をご卒業された後、鹿児島県公立小学校教諭、川崎市公立小学校教諭として長年お勤めになりました。2010年4月からは、川崎市立東生田小学校教頭、2012年4月から川崎市立宮前平小学校校長を歴任されました。そして、2016年4月に日本女子大学人間社会学部教育学科の特任教授として着任されて以降、7年間のあいだ日本女子大学にお勤めになられました。

先生のご専門は、国語科教育です。「生きて働くことばの力を育む国語科授業づくり」をテーマに長年にわたって研究を進められ、川崎市立小学校国語教育研究会誌、本学教職教育開発センター年報などに研究成果として多数ご発表されています。また、川崎市立小学校国語教育研究会の役員や会長を歴任されるとともに、多くの学校から校内研究会講師として招聘され、小学校国語科教育の発展に大きく貢献されました。宮前平小学校における子ども読書活動の実践推進が評価され、2015年4月に文部科学大臣表彰を授与されています。

日本女子大学では、教職科目の授業や教育実習指導を多数ご担当されました。宮井先生ご自身の小学校教職経験に基づいた熱意あふれる実践的なご講義は、学生の教職に対する使命感と覚悟を固める重要な契機となっていました。教育学科1、2年次教職科目「学校インターシップⅠ・Ⅱ」では、川崎市内の小学校との協力体制の構築により、学生の円滑な学校体験実習のために奔走してくださいました。加えて、多摩区・3大学連携協議会における「学校教育ボランティアサポート事業」においても、本学の主導的な役割を精力的に担ってください、社会連携・地域連携の推進に大きく寄与されました。西生田教職支援室並びに、教職教育開発センターにおける教員採用試験対策の個別相談や対策講座企画運営では、教職をめざす学生の立場に立って的確な方向性を提示いただき、常に温かく励ましていただきました。2020年度から始まった新型コロナウイルス感染症対策下での教育実習関連の指導は、誰も経験のないものでしたが、学校現場を熟知されている宮井先生の大きな支えのもと、無事に実施することができたと言っても過言ではありません。

このように、教育学科や本学教職課程に誠心誠意尽くしてくださったことに心から感謝申し上げます。宮井先生のご退職は寂しい限りですが、これからも教育学科の未来を温かく見守っていただけることを確信しております。最後になりましたが、先生のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

